

男子戦評

大会名 第64回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦

日 時 平成23年10月15日～16日

会 場 青森市民体育館

男子決勝（10月16日）

弘前工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 26-24 \\ 25-20 \\ 19-25 \\ 22-25 \\ 15-12 \end{array} \right.$ 2 五所川原工業高等学校

ファーストレフリー 晴山雅紀
セカンドレフリー 岡村尚文

6年連続36回目の選手権大会出場を目指す弘前工業高等学校（以下弘工）と6年ぶり5回目の選手権大会出場を目指す五所川原工業高等学校（以下五工）との対戦。第1セット序盤、五工は4本のサーブミスなどで弘工にリードを許すが、中盤以降エース工藤のライト攻撃や加藤のレフト攻撃で流れに乗り、17-20と弘工を引き離す。しかし、弘工はキャプテン山岸のレフト攻撃が立て続けに決まり24-23と逆転し、最後は佐々木のバックアタックが決まり、弘工が第1セットを先取る。第2セット、弘工はサウスポーの一戸の時間差攻撃や沼村の速攻で五工のブロック陣の的を絞らせず、12-7と大きなリードを得る。五工はセッターを井上から桑村に代えることで攻撃の流れを変え、一時は2点差まで詰め寄る。しかし、弘工キャプテン山岸が要所でレフトからスパイクを決め、25-20で弘工が第2セットも連取する。第3セット、後が無くなった五工は須藤の時間差攻撃やバックアタックによる連続得点で流れをつかむ。一方弘工は、コンビミスやスパイクミスなどで点差を離されてしまう。セット終盤、五工は倉光のブロックやエース工藤のバックアタックなどで一気に突き放し、3セット目は五工がセットを奪う。第4セット、五工の工藤は力強いスパイクだけでなく、フェイントや高速ジャンプサーブ、ブロックでも得点を重ね、五工が主導権を握る。五工はその後、弘工のエース佐々木のスパイクを須藤がブロックで立て続けに止めるなど、弘工の流れを断ち切る。このセット、工藤の10得点の活躍などで五工が連取し、最終セットまでもつれる激戦となる。最終第5セット、弘工は一戸を絡めたコンビネーションで、五工もエース工藤のライト攻撃などお互いに得点を重ね、拮抗する展開となる。8-10と五工が一時は2点のリードを得るが、コンビミスなどで12-11と逆にリードを許してしまう。一戸のライト攻撃でマッチポイントを得た弘前工業高等学校は、沼村のサービスエースで激戦を制し、6年連続36回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 猪股豪